

虹色のドレス

小松高2年

米田^{よねだ} 音乃花^{ののか}



コロナ禍によって延期になり、今年ようやく開催された東京オリンピック。その開会式を見ていた私は、ある瞬間テレビ画面に目が吸い寄せられた。歌手のMISIAさんが映し出されたときのことだ。彼女のまとう衣装を見た私は「なんて美しいんだろう」と思わず息をのんだ。目にも鮮やかな虹色のドレスは見ているだけで明るい気持ちにさせてくれ、先の見えない自粛生活の中で感じていた憂鬱や不安も少しの間忘れられた。

そんなドレスに「サンコロナ小田」という小松市に本店を持つ企業が携わっていることをこの記事で知って、とても驚いた。同時に、あの日感じた感動に身近な地域が関わっていることを嬉しく思った。この企業が手掛けたのは虹色

のドレスの生地である「オーガンザ」という織物で、ペットボトルを原材料としているそうだ。SDGsを掲げて持続可能な社会を目指すという現代。環境に配慮しつつも、色とりどりで美しいこの素材は非常に魅力的だと感じた。もっと多くの人に知ってほしい、様々な場面で使われてほしいと私は思った。

賛否両論ある中で開かれたオリンピックだったが、始まってみれば多くの感動とドラマがあった。開会式で見たドレスもその中の一つだった。だが、この記事を見なければ、私はあのドレスに地元企業が関わっていたことやオーガンザという素材があることなど一生知らなかったかもしれない。人や本との出会いと同じように、新聞記事との出会いも「一期一会」なのだ。あ、と私は思った。あの日見たドレスの色を、オリンピックが終わった今でも目蓋の裏に残る色彩を、私は忘れないだろう。

もし将来、私に子どもや孫や、大切な人ができたときに、東京オリンピックの話をするかもしれない。その時、私はこんな風にドレスのことを話すのかもしれない。

「東京オリンピックで国歌を歌ったMISIAさんって人が、とっても綺麗な虹色のドレスを着ていたんだよ。」

そして次にはきっと、こう言うだろう。

「そのドレスには、私の地元にある企業が関わっていたんだよ。」と。未来を想像してみるの、おもしろい。

コロナ禍の中でマスクの着用が当たり前になり、友達の顔が見られなくなった。部活の大会が無観客になった。学校行事が縮小された。夏祭りも花火大会もなくなった。そんなことが続いて、つい、気持ちたちが沈みがちになってしまふ。だけど私は、前を向いて進んでいきたい。この苦しみを抜けた先には希望に満ちた未来が待っているはずだから。あのドレスのように虹色に輝く、美しい未来が待っているはずだから。